

大人塾発表会 2011

日時：2011年5月21日（土）

会場：セッション杉並

主催：大人塾まつり実行委員会

共催：杉並区教育委員会

社会教育の先進地と言える東京都杉並区では、「自分をふりかえり、社会とのつながりをみつける大人の放課後」をキャッチコピーに、社会教育の代表的な取り組みのひとつである“すぎなみ大人塾”を長年にわたり開講しています。

“すぎなみ大人塾”には、昼コースと夜コースがあります。その内、昼コースでは、平成21年度より“だがしや楽校”をテーマに講座が開かれています。

さて、“だがしや楽校”をテーマにした“すぎなみ大人塾”昼コースの第一期生と言える平成21年度の受講者の一人である海老沼さんが、4月30日に山形市へ来られ、東日本大震災支援チャリティ“だがしや楽校&ライブ&バザー”でおみせを出されました。その時にご紹介いただいたのが、“大人塾発表会2011”でした。

私（山口）が取り組んでいる“だがしや楽校”普及事業は、その名の通り“だがしや楽校”を普及させることが第一の命題ですが、それは単に“だがしや楽校”を知っていただき、“だがしや楽校”を開いてもらえば良い、というものではありません。

例えば、“すぎなみ大人塾”の場合、1年間の講座で“だがしや楽校”を知り、“だがしや楽校”を開き（体験し）、“だがしや楽校”を学び・理解すれば良いというものではありません。

実は、その後が大切なのです。受講された方が、その後の地域活動で、その後の生き方で、いかに“だがしや楽校”を活用しているか、“だがしや楽校”的生き方をされているか、“だがしや楽校”を通して地域とのつながりを築かれているか、といったことが重要なのです。

それを確認することも、私の重要な仕事であります。

“だがしや楽校”は、一過性のものではありません。その人の生き方に関係するものです。だから社会教育なのです。受講者にとっては、究極の生涯学習と言えます。

本当の“だがしや楽校”普及とは、ここまでフォローして、初めて「目的を達成した」と言えるのです。さらに、ここまでフォローすることで、“だがしや楽校”普及事業の目的のひとつである“だがしや楽校全国ネットワーク”が構築されていくのです。

講座修了後の受講者の人たちの活動発表の場である“大人塾発表会 2011”は、そういう意味で“だがしや楽校”普及を確認する絶好の場と言えます。

このような背景により、今回のフォロー活動（取材）となりました。実は、ほかにも目的があるのですが、それは、このあとの報告の中でご紹介します。



2011年5月21日（土曜日）杉並の天気：晴れ

【大人塾発表会 2011】

「つながりの発見、それを育てる」をキャッチコピーに開催された“大人塾発表会 2011”は、次のような趣旨で開かれました。

新緑のセッション杉並は、子どもと大人のオアシス。

L I V Eあり、お店あり、展示や相談会あり、大人塾卒業生の活動とネットワークが結集した、地域みんなのふれあいビレッジの出現です。さあ、この機会に、老いも若きも一緒になって、人と人とのつながりを発見し、絆（きずな）を育てていく「大人塾」の活動を、ぜひ体験してみてください。

“大人塾発表会 2011”では、約30の「おみせ」が出されました。今回は、夜コースのおみせが多かったのですが、昼コースの“だがしや楽校”のおみせも出されています。加えて、福島の物産を販売する屋台も登場しました。

今回は、すべてのおみせをご紹介することはせず、昼コースのおみせを中心に、交流を楽しみながら、ジックリと取材しました。

それでは、ご紹介しましょう。

▼新緑もちつき大会



セッション杉並に入って、真っ先に目に付いたのが、餅つきです。

夜コースの受講者と“だがしや楽校”有志による餅つきです。海老沼さんが陣頭指揮を執っていました。つきたてのお餅は、あんこ・きなこ、それになんと大根おろし！にしました。納豆餅ではありません。それでも、杵と臼でついたお餅は、とても美味しかったです。

▼山形名物 玉こんにやく

海老沼さん監督の山形名物・玉こんにやくが好評でした。私も食べてみましたが、味がしっかり染み込んでいて美味しかったです。

参加された人の中には、きょう初めて玉こんにやく食べて、大感激されていた人がいました。その人、こんにやくのイメージが覆されたような感想を話されていました。



▼福島応援物産販売～買うことで気持ちを伝えよう 直前になって出店が決まった屋台です。

4月23日～24日、福島県会津若松市では、福島を元気にするプロジェクトが開かれました。そこでは、“だがしや楽校”仲間で、会津坂下町金上公民館の佐藤さんの尽力で“だがしや楽校”が開かれました。その内、4月24日には、独自に“だがしや楽校”を開いている子どもアミーゴ西東京の人たちが会津若松市を訪れ、“だがしや楽校”に参加しました。

子どもアミーゴ西東京の理事の一人が、“だがしや楽校”仲間であり、“すぎなみ大人塾”の仕掛け人と言える中曽根さん（杉並区教育委員会）です。

5月14日、“だがしや楽校”仲間が活躍されている大阪府豊中市で復興支援イベントが開かれ、福島のも産物が販売されました。それを知っている中曽根さんは「大人塾発表会でも販売できれば」と私と会津坂下町の佐藤さんに打ち明けられたところ、話がトントンと進みました。

屋台には、会津坂下町の佐藤さんから送られた会津地方を中心にした物産品が並びました。よく売れていましたが、もっと目立つようにPRすると、もっと早く完売できたかもしれません。

PRすると皆さん反応され、いっぱい買われていました。やっぱり気持ちです。



▼芋にいちゃん（おためし版）

おいしいお芋を、もっともっとおいしく食べよう・・・という屋台です。多くの人々が群がりました。



▼フェアトレードのおみせ

温もりと繋がりに出会うフェアトレードのある暮らしをしてみませんか？というおみせでは、小物入れから指人形、箸、子ども用のスプーン・フォークまで、暮らしに役立つものがたくさん売られています。

おみせには“千手観音”の大きな文字も・・・。



▼スイーツショップ ほんのり

昼コース“だがしや楽校”仲間が集結しているおみせです。子どもたちが、フェルトを使ってケーキやパフェを作っています。すっかりお馴染みのおみせになっています。



おみせの様子を見ながら、私もしばらく皆さんと談義させていただきました。

▼ハーブとピアノのオーガニックコンサート ～五感+第六感で極上のひとときを～



大人塾をきっかけに、ハーブ好きが集まって活動しているジプシーカフェ“葉花”のおみせは

まさに癒しの空間です。

ピアノ演奏は池田千夏さん。コンサートは3回行われましたが、それぞれテーマがあります。1部は「ピーターラビットとカモミール」、2部は「ラベンダーの香りとピアノの調べに包まれて」3部は「スカボロー・フェアとハーブの歴史」です。

この内私が鑑賞したのは3部。“スカボロー・フェア (Scarborough Fair)” は、コンサートにふさわしい曲です。“スカボロー・フェア” では「Parsley, sage, rosemary and thyme」と歌われているからです。

演奏終了後は、ハーブティーを楽しみました。

“葉花” はコミュニティカフェですが、気の向くまま、風の吹くまま、あちこちでカフェを開きたいということで、ジプシーカフェ“葉花” と名付けました。

▼撃退！！悪徳商法 ～あなたも狙われている～

なんかおもしろいことをやっているな～と思って近づいてみますと、“撃退！！悪徳商法” という屋台です。だまし役とだまされ役の人が登場し、悪徳商法の勧誘に実態と、撃退法を紹介しています。



ほかには、パネルシアターによる「ナミーちゃん初めてのお買い物」や、心理テストによるだまされ度を診断するコーナーもありました。

おみせを出したのは、杉並区消費生活サポーター“グループ・スリーS”です。

スタッフの人からいただいたチラシにも書かれていますが、大震災にかこつけた悪徳商法が横行しています。悪質な勧誘や不審な電話には要注意です。

それから、募金と称して、不当にお金を要求する行為も見られます。こういう人たちに限って、募金をしなかったり、無視したりしますと、「人でなし」という言葉を浴びせます。

さらに、「がんばろう東北！」と書いたものを体に貼り付け、「福島から来た」と言って、要らないものを売り付けようと訪問販売をする輩もおります

私も気を付けなければならない、と思った次第です。

▼雑 DOLL・カフェ

皆さんが作っているのは“つるし雛”。お聞きしたところ、“つるし雛”は「九州・柳川発祥」

とのことですが、山形県の酒田市にも老舗の店があるようです。



チョット季節外れのおみせですが、“つるし雛”が作れるカフェでは、杉並産の美味しいマーマレードのケーキも販売していました。

杉並では、アマチュアランチサロン（笑うかど Kotane）が主催して、“雛ぷろじえくと”を展開します。「つるし雛をいっしょに作り、来年3月の節句に、被災地に送りましょう」という息の長いぷろじえくとです。

毎月第2金曜日の午後2時から、講師に宇田川恵美子さん（あとリエ和布主宰）を招き、ゆうゆう荻窪東館にて開くそうです。6月は10日（金）です。

▼ゲーゴルゲーム

NPO法人日本心身機能活性療法指導士会の屋台です。

ゲーゴルゲームとは、ビリヤードとゴルフをもとにしたゲームで、大人も、子どもも、障がいの方、車イスの方でも楽しめる遊びです。認知症・介護予防にも最適だそうです。



▼筆文字の魅力発見 筆と遊ぼう！

筆と言いますと、習字を思い出しますが、筆は旧石器時代にはその原型があったといわれています。いつも書いている文字も、筆で書きますと、芸術になるかもしれない・・・を体験するおみせです。

そう言われると、筆は持ち方・書き方・力加減で、そのようにでも書ける魅力があります。



▼バルーンカーを作ろう

▼災害チャリティTシャツ販売&カッチェルおばちやま女子会



▼なみすけ



この日の“なみすけ”は、義援金募集に一役買っていました。

“なみすけ”が活動しているセッション杉並の入口前・アプローチでは、販売のおみせが建ち並んでいます。



その内、どんまい福祉工房では、もったいない倶楽部のマーマレードを使用したパンを販売していました。ここでもマーマレード。杉並はマーマレードの産地です。

▼みどりのわっか

若手農家による新鮮な有機野菜を販売しています。

さて、海老沼さんに誘われて、おみせにやってきます。なんでも、ずんだ団子を販売していると言うのです。海老沼さんは、私に味見してほしかったようです。

甘党の私、ワクワクです。

スタッフの人は「今回初めて出しました」と言います。海老沼さんは「豆の皮を取り除いていませんが・・・」と言います。

私は代金を払った上で、試食？しました。感想は「何かが足りません。もっとコクのある甘さがほしいです。思い切って砂糖をもっと入れましょう。それで味を調整することです」と申しあげました。要は経験を積み重ねることです。

ただし、私の舌感覚と、杉並の人たちの舌感覚は、同じであるはずもありません。

気が付くと、ここまでは美味しかった感想が多くなりました。

でも、杉並では毎回、食を大切にしていることを感じます。きょうも食の屋台あるいは食に関係する屋台が多かったのであります。



◎神代さんとの再会

さて、この日の取材には、もうひとつ目的がありました。それは、神代さんとの再会です。

神代浩氏（国立教育政策研究所）には、“だがしや楽校”被災地・避難所（の子どもたちへの）支援活動に於いて、大変なるご支援をいただくことができました。お陰様で、“だがしや楽校”では、だがしや楽校だがしや倶楽部が中心になり、東北芸術工科大学なども加わり、長期間にわたり、そして広範囲にわたり、支援活動を行うことができました。支援活動を通して、“だがしや楽校”普及にもつながりました。

それで、私としても神代さんに出来るだけ早くお会いし、御礼を申し上げたいと思っていたのですが、中曽根さんより、神代さんが来られることを知り、この日の取材となったのです。

私が神代さんに声をかけたのは、神代さんが福島の物産品を購入した直後です。

私の顔をご覧になった神代さんは、少々ビックリされていましたが、すぐに握手を求められ、「今回は本当にお世話になりました」と頭を下げられ



ました。今度は私がビックリするやら、恐縮するやら・・・。おそらく神代さんとしては、「とにかく被災地の子どもたちを救いたい」というお気持ちがあったのでしょう。

そういう意味では、“だがしや楽校”にとっても、神代さんにとっても、お互いに良かったと思います。そして、何より、被災地・避難所の子どもたちに喜ばれたことが、最大の喜びであります。

その神代さん、この日は“すぎなみリアル熟議”にて、基調講演とコメンテーターを務めるために、セッション杉並に来られました。

というわけで、この後は“すぎなみリアル熟議”について、ご紹介しましょう。



▼すぎなみリアル熟議

テーマ：これからの社会教育の役割を考えよう

趣旨：今回の震災を受け、災害を乗り越えるために地域を越えて社会教育ができることは何かを一緒に考えてみませんか？

主催：大人塾まつり実行委員会

共催：杉並区教育委員会 学生団体 STUNITY

後援：文部科学省

協力：文部科学省熟議協働員

これも“大人塾発表会 2011”屋台のひとつです。

テーマは“これからの社会教育を考えよう”です。

趣旨は「東日本大震災・被災地のために社会教育ができることを考えよう」です。

“すぎなみリアル熟議”には、杉並だけではなく首都圏各地から定員いっぱいの60名近くが参加し、午後1時から午後4時までの3時間という長時間にもかかわらず、大盛況となりました。

主催者挨拶の後、神代さんによる基調講演です。

神代さんは、大震災後の状況について、社会教育が後回しにされていることを指摘します。

例えば、公立学校施設の被害状況把握と社会教育施設の被害状況把握では大きな差が生じました。教育委員会は学校の状況把握に社会教育担当職員も応援させたからです。

教育施設の被害状況（岩手、宮城、福島3県）

	公立学校施設	社会教育施設
3月15日5時	421	23
3月31日5時	1,663	543
4月20日7時	1,827	981

公民館は避難所になりました。図書館・博物館が被災しても、その職員は避難所運営にかり出されました。

公民館が想定外の避難所となりました。3月20日の時点で、被災地3県で335カ所の公民館が避難所となり、約13,000人の被災者を受け入れました。この内あらかじめ避難所に指定されていたのは約3分の1。

仙台市では指定避難所ではないコミュニティセンターの内20カ所以上が避難所になりました。大震災は、社会教育の弱まりを示しました。

そこで、4月11日“saveMLAK”が発足しました。(5月20日現在)

M=博物館・美術館・・・5,339件登録。内109件被害。

L=図書館・・・・・・・・・・1,127件登録。内165件被害。

A=文書館・・・・・・・・・・133件登録。内16件被害。

K=公民館・・・・・・・・・・565件登録。内21件被害。

有志が被災・救援情報を集約。専門技能ボランティア（プロボノ）の登録。復旧・復興支援のマッチング。

被災地公民館が抱える課題として

◎個々の避難所は奮闘。例「孤立の住民、笑顔で励ます 名取の公民館長」

◎他方で被害を免れたが手持ち無沙汰の公民館。

計画停電の影響で必要な事業まで自粛する公民館。

IT活用に無理解な公民館など。

◎復旧・復興に向けた公民館の役割が不明確。

こうした社会教育・公民館の現状を踏まえ、“うきうきウィキ祭り”を開催。

第5回は、6月19日（日）10:00～24:00開催。

セッション並でも13:00～18:00まで開催。

公民館情報を強化します。

ミスター公民館と言われる神代さんの思いを強く感じる講演でした。

続いて、被災地に入って活動された吉永さんからの報告です。

吉永さんは、復興への課題として、義援金より支援金が先、支援物資の停滞（お届けシステムの仕組みづくり）、心のケア（現地は心もとない）、現地の「忘れないで」の声などを挙げていました。

さらに深刻なのは、各団体の横のつながり（連携）がなく、バラバラでることです。また、被災地も動脈硬化気味です。これは被災地も、日頃支え合っていないため？

また、吉永さんも指摘したのは、コーディネーター不足です。これは、これまでも何度か聞いたことです。これでは、被災地・被災者が求める支援と、支援する側の支援がマッチングできません。これは相当深刻です。

次に、ワールドカフェという手法による話し合いです。

テーマは「災害を乗り越えるために地域を越えて社会教育ができることは何か」です。

ワールドカフェとは、カフェのような雰囲気、リラックスしながら、知恵や考えを出し合い、テーマについて意見や考えを共有したり、創造したり、結論を導き出そうという会議の手法。あるいは、創造性に富んだ会話ができる場とプロセスを用意することで、組織やコミュニティの文化や状況の共有や新しい知識の生成を行うファシリテーションプロセスを言います。

ワールドカフェの約束（エチケット）は、リラックス（エキサイトしない）、対話を楽しむ（議論はしない）、テーマに集中（はずれたら即もどす）、話は短く簡潔に（何回かに分けて）などです。

ワールドカフェは6つのグループに分かれて行われました。



私はワールドカフェの途中、一端会場を出て、“ハーブとピアノのオーガニックコンサート”取材しましたので、話し合いの様子はよくわかりませんが、神代さんによりますと、各グループとも、結構突っ込んだ話し合いがなされたそうです。

会場に戻りますと、グループ毎に発表が行われていました。

私が聞くことができたのは、6グループの内4グループです。発表についての感想は、このあとの《振り返り》でご紹介します。

発表を受けて、神代さんが講評を行いました。

この中で神代さんは、私案として、社会教育の政策的位置付けについて話されました。

給付手法：直接的 給付内容：現金・・・生活保護、子ども手当など

給付手法：直接的 給付内容：サービス・・・介護・医療・保育・学校教育など

給付手法：間接的 給付内容：現金・・・税制優遇

給付手法：間接的 給付内容：サービス・・・？

？こそ社会教育！

例えば、医療では治療・投薬するだけ。でも、医療機関に来た人同士のコミュニケーションが生まれます。これが社会教育です。

このあと、発表についての感想を話されましたが、これも、このあとの《振り返り》でご紹介します。

《振り返り》

“すぎなみリアル熟議”を含め、“大人塾発表会 2011”全般について振り返りましょう。なお、すでに記載している内容もありますが、理解を深めていただくため、あえて重複して記載いたします。

“大人塾発表会 2011”全体の人出は例年より少ないそうですが、逆にそれが、報告する側（おみせ・屋台を出したり、発表・展示をしたり、熟議を開いた大人塾卒業生）と来場者とのコミュニケーションにつながっていました。あちこちで「あなたも来ていたの」とか「久しぶり」とか、いろんな再会や出会いの声が聞こえていました。

私（山口）にとって、この日の“大人塾発表会 2011”は癒しの空間でもありました。

大人塾卒業生（特に“だがしや楽校”をテーマにした昼コースの人たち）とおしゃべりは、リフレッシュにつながりました。

“ハーブとピアノのオーガニックコンサート”のおみせでは、完璧に癒されました。

前日からの首都圏出張では、いかに米沢・山形・東北が、いまだに落ち着いていないかを気付かされているのですが、きょうの“大人塾発表会 2011”からも、同じように感じました。

普通に生活できることのありがたさを感じております。

山形に来られた海老沼さんをはじめ、皆さん元気にされていて、本当に良かったです。

今回の出張は、取材・情報交換・今後の“だがしや楽校”普及活動についての意見交換などが主目的です。でも、もっと大切なことは、皆さんの元気な姿を確認することです。

数多くの大学生さん（15名）が、おみせ番をするなどの手伝いをしていました。“大人塾発表会 2011”は、学生さんにとっても、地域の人たちとつながる場でした。

あらためて、国立教育政策研究所の神代さんと再会できて「良かった」と申し上げます。

被災地や避難所の子どもたちへ、おもちゃや絵本を“だがしや楽校”を開きながら送るという“だがしや楽校”の支援プロジェクトが展開できるようになったのは、神代さんのお力と、私がコーディネーターとして、ちょっとはお役に立てたからです。

神代さんからは「ここで山口さんと会えて良かったです。本当にあの時はありがとうございました」と言ってくださいました。私もお会いできて、その時の苦労が癒された感じでした。

この日は1日、神代さんといろいろなこと（社会教育・公民館・被災地支援・これからのだがしや楽校ことなど）を話すことができました。

とにかく神代さんには、もう一度、山形に来ていただきたいと思いました。

その神代さんが、“すぎなみ大人塾”の卒業生が出したおみせのひとつ“すぎなみリアル塾 ～これからの社会教育を考えよう～”に、基調講演と講座全体のサポート役を担われていたのには、ビックリしました。気持ちのある人は違います。

神代さんの基調講演から、日本に於ける社会教育の弱さ・公民館活動の弱さを感じました。大

震災後、公民館として何をしたら良いのか・・・という声は私も聞きました。

そういう意味で、杉並の社会教育の取り組みは、特筆すべきことであることを、あらためて感じました。社会教育センターが機能しているから“すぎなみ大人塾”も始まり、長年続いているのです。

もちろん、“だがしや楽校”仲間でもある中曽根さん（神代さんが「ミスター公民館」なら中曽根さんは「ミスター杉並社会教育」と言える人です）の尽力があることも忘れてはなりません。つまり、人と仕組みがうまくつながっているのです。

“すぎなみリアル熟議 ～これからの社会教育を考えよう～”が、“すぎなみ大人塾”の卒業生によっておみせになること自体、凄いことなのに、定員 60 名のほぼ満杯になるという、大盛況でした。

“すぎなみリアル熟議”のワールドカフェでは、学生さんなど若い人たちが、そのグループのファシリテーター役を担っていました。これまた凄いことです。

ワールドカフェでのグループ毎の発表をお聞きして感じたことです。

正直申し上げて、つまらない発表になりました。また、被災地や被災者と、どのようにつないでいったら良いのか、というイメージが湧かない発表でした。

これでは、被災者・被災地支援、あるいは、テーマである「災害を乗り越えるために地域を越えて社会教育ができることは」にはつながりません。この場限りになりそうです。

発表では「交流の場」「人とのつながり」「コミュニケーション」「自分を見直す」「互いを知る」などの言葉が出てきました。そして、これらのことを進めるためには・・・まで発表されていました。

例えば、交流の場をつくる→ワールドカフェもそのひとつ→意識の低い人にも参加してもらうためには→魅力ある人づくり・人間力→そのためには→交流の場をつくる・・・つまり、サイクルを回す・・・というわけです。

サイクルを回す・・・この発想はいかにも企業的・経済的です。いかにも、もっともらしいです。しかし、このような型枠にはまった発想では、今回の大震災を乗り切ることはできません。

ワールドカフェとは、自由な発想・創造による話し合いの場です。

そういう意味では、最後に発表された杉並グループは良かったです。話し合いの様子・経緯を紹介しており、「地域を散歩してみよう」という具体的な行動まで示されました。

テーマの「災害を乗り越えるために地域を越えて社会教育ができることは」も、わかったようで、わからない感じです。「地域を越えて」はイメージできますが、「災害を乗り越えるために」と“すぎなみリアル熟議”との関係、参加者がどのように考えるのか、その関係がよくわかりませんでした。

発表では、被災地を支援するには、自分を知る、地域を知る、支援するための地域をつくるなどが紹介されました。これはこれで、ひとつの成果であるとは思いますが・・・。

神代さんは、講評の中で、次のように話されました。

ワールドカフェでは真剣に議論されていて、心強く思いました。

ただ、発表を聞きますと、政府や自治体の政策発表のような感じになってしまいました。これでは、この会場から出てしまうと、リセットされてしまい、明日以降の行動にはつながりません。

真面目に議論するのではなく、楽しく議論することです。

「～しなければならない」ではなく、また議論を反省するのではなく、楽しくできることを話し合います。

例えば、「明日からラジオ体操をしましょう」と言って、皆さん明日からしますか？

例えば、「旅行しよう。安くて、楽しい旅行にすることを考えましょう」という話し合いです。

神代さんが“だがしや楽校”に共感された背景が見えてきました。

終了後、神代さんとも話したのですが、発表内容では被災地支援にはつながりません。議論の過程で出た発言の方が、実際の支援につながると感じました。

いずれにしても、普通の生活に戻っている首都圏では、社会教育について考えてもらう取り組みを続けていくことです。被災地との距離が遠くならないためにも・・・。

社会教育とは、柔軟性・創造性を持った教育です。それを考えますと、せっかく“すぎなみ大人塾”の昼コースでは“だがしや楽校”をテーマにしているのですから、“だがしや楽校”的発想・手法をもっと活用し、浸透させるべきであると感じましたし、社会教育に強く取り組んでいる杉並なら出来ることだと思います。

これは私（山口）自身の課題でもあります。まだまだ、私のやるべきことは、たくさんあります。

平成 23 年度も“すぎなみ大人塾”が開かれます。

この日は、昼コース・夜コース合同の開講記念講演会が行われました。

このあと、昼コースは“だがしや楽校的社会的な作り方”をテーマに6月13日から全18回、夜コースは“はじめてのソーシャル・アクション”をテーマに6月1日から全18回の講座が開かれます。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター